

2022年7月10日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第65巻第13号(通算3295号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさま ひととも  
神様がすべての人と共に  
あかし きょうかい  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ 5:5)



ぶらくかいほういの ひ れいはい  
**部落解放祈りの日礼拝**  
せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい  
**(聖霊降臨節 第6主日礼拝)**

れいはい  
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
しちょう  
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ  
招きの詞 詩編 33編 4-5節

さんびか ばん き きやうだんしゅつばんきよく  
賛美歌 21-444番「気づかせてください」(©教団出版局)

せいしよ せき しょう せつ  
聖書 エステル記 4章 10-17節

ぶらくかいほういの ひ リタニー ページ さんしやう  
「部落解放祈りの日」の交唱(2頁をご参照ください) みんなで

さんびか ばん だね ちよさくけんしやうめつ  
賛美歌 21-199番「ひとつぶのからし種のよう」(©著作権消滅)

メッセージ 「大きいことはできないけれど」 牛田 匡 牧師

さんびか ばん しゅ さき さんびかいいんかい  
賛美歌 21-512番「主よ、献げます」(©讚美歌委員会)

しゅ いの ページ さんしやう  
主の祈り (3頁をご参照ください)

ささげもの  
献げ物 (\*)

は け ばん かみ めぐ う せつ  
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく しょう せつ  
祝福 牛田 匡 牧師

こう そう ばん ちよさくけんしやうめつ  
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほう こく ページ さんしやう  
報告 (6頁をご参照ください)

となり かんかく せき すわ れいはい さんか  
《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

ささげもの けんきん さんかひ  
\* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた さき  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 33編 4-5節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>4</sup> 主の言葉はまっすぐ／主の業はすべて真実。

<sup>5</sup> 主は正義と公正を愛し／主の慈しみに地は満ちる。

「部落解放祈りの日」のリタニー (「部落解放祈りの日パンフレット 2022」より)

司会者 生れたところで差別するわたしたちがいます。

みんな でも、みんな大切なひとりひとり。

司会者 病気やしょうがいによって差別するわたしたちがいます。

みんな でも、みんな大切なひとりひとり。

司会者 イエスさまは、差別された人々といっしょにご飯を食べました。

みんな だから、みんな大切なひとりひとり。

司会者 イエスさまは、病気に苦しむ人々をぎゅーっと抱きしめられました。

みんな だから、みんな大切なひとりひとり。

司会者 わたしたちを造られた神様が言われます

全 員 みんな大切なひとりひとり。アーメン

聖書 エステル記 4章 10-17 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>10</sup> エステルはハタクと語り、モルデカイに次のように伝えるよう命じた。<sup>11</sup> 「王の家臣と王の諸州の民が皆知っているとおり、呼ばれないのに内庭<sup>うちにわ</sup>に入って王のもとへ行く者は、男であれ女であれ、殺されなければならないという一つの法があります。ただ、王が金の笏<sup>しゃく</sup>を差し伸べた者だけが死を免<sup>まぬ</sup>れます。私はこの三十日間、王のもとに行くよう呼ばれておりません。」<sup>12</sup> エステルの言葉がモルデカイに告げられた。<sup>13</sup> モルデカイはエステルに返答して言った。「あなたは、その他のユダヤ人とは異なり、王宮にいる自分は難<sup>なん</sup>を免<sup>まぬ</sup>れるだろうと思ってはならない。<sup>14</sup> もし、この時にあなたが黙っているならば、ユダヤ人への解放と救済が他の所から起こり、あなたとあなたの父の家は滅びるであろう。このような時のためにこそ、あなたは<sup>おうひ</sup>王妃の位に達したのではないか。」<sup>15</sup> エステルはモルデカイに返答して言った。<sup>16</sup> 「あなたは行って、スサにいるすべてのユダヤ人を集め、私のために断食<sup>だんじき</sup>してください。三日の間、夜も昼も、食べても飲んでもいけません。私も私の侍女たちも、同じように断食します。このようにしてから、法に背<sup>そむ</sup>くことですが、私は王のもとに行きます。もし死ななければならないのであれば、死ぬ覚悟はできております。」<sup>17</sup> モルデカイは出かけて行って、すべてエステルが彼に命じたとおりに行った。(脚注 a: 別訳「王国に着いた」)

《先週のメッセージより》2022年7月3日礼拝メッセージ

「少女の言葉、少年の体」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 列王記 下 5章 1-5、9-14節

「変わらないって、勝手に決めつけるな！」少し前のテレビアニメ「NARUTO-ナルト-」で、主人公のうずまきナルトが、ライバルの一人に向けて放った言葉です。人は変われるのか。世界は変えられるのか。本日の御言葉に登場する二人の人物。「アラムの王の將軍ナアマン」(5:1)と、「イスラエルから捕虜として連れて来られた少女」(5:2)。国籍も、身分も、財力も、年齢も、人生経験も、性別も、全くの正反対。物語の場面となるアラムの国の社会通念からすれば、その国の権力者であるナアマンの方が、少女よりも圧倒的に優れているということになります。ですが、ナアマンには、ひとつ、自分でもどうすることもできない負い目がありました。「規定の病」を患っていたのです(5:1)。その病、ナアマンにとっての負い目を取り除くきっかけを作ったのは、ナアマンとは正反対の存在であった少女です。権力をほしいままにし、力を誇示できる者と、力を奪われ、社会から見放された者。その二人が出会い、交わる。互いを隔てる境界線を越えるということは、どちらにとっても、かなりハードルの高いことであったことでしょう。本日の物語では、ナアマンがためらい、葛藤しながら越境していく様子が詳しく描かれていますが、ナアマンより先に、もっと厳しい状況下で、大胆に、潔く、自分と他者とを分け隔てる壁・線を越えていったのは、むしろ少女の方だったはずです。2千ページほどもある聖書の中で一ヶ所だけ、しかもたった3節という短い記述の中で、名前も記されずに、そっと登場している脇役。その彼女が、国籍の違いも、身分の違いも、財力の違いも、権力の違いも、性別の違いも、すべて越えて、ナアマンのことを思い、言葉を紡いだからこそ、ナアマンの病が癒されたのでした。

わたしたちが主として仰ぐイエス。その歩みを振り返るとき、常に、異なりを悠々と越えていく姿を目撃します。異なりを持つ人たち、なかでも、社会の多数から、「劣る」と見なされていた違いや異なりを持つ人たちを、心から愛し、共に生きる道を歩み続けたイエス。最も小さくされた人、自分の意思とは関係なく社会の底辺に追いやられている人。その人たちの存在に目を向け、声や言葉に耳を傾ける。いや、単に目を向けて、耳を傾けるだけではなく、自らがその者たちの存在を身に引き受け、その人たちと共に生きていく。そこにこそ、イエスの福音のメッセージが、光を放って輝いているのです。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 7月3日

主日礼拝出席 大人 4名 中継動画再生数 13回  
 献金 大人 5,000円 感謝



◎次週 2022年7月17日(日) 聖霊降臨節第7主日礼拝

招きの詞 ガラテヤの信徒への手紙 5章 5-6節

聖書 エレミヤ記 23章 16-32節

メッセージ「偽りの夢 真実の夢」牛田匡牧師

賛美歌 224番(©教団)、「絶望の中に主はよみがえる」(©JASRAC)、201番(©JASRAC)

礼拝はインターネットで中継配信いたします。

◎お知らせ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染が再び急増しています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・7月16日(土)15時~16時半に、大阪教区「宣教セミナー2022」が開催されます。テーマは「教団『機構改定』」についてです。今、日本キリスト教団全体では、何が話し合われているのか。なぜ機構改定をする必要があるのか。どこを変えるのか。一人ひとりの信徒や教会・伝道所にどう影響するのかなど、教団副議長の久世そらちさんからお話を伺います。ZOOMによるオンライン参加も可能です。参加申し込みも不要です。当日、ZOOMのアプリケーションに、ミーティングID:88314434693 と、パスコード:681064 を直接入力してご参加ください。
- ・東京電力福島第一原発事故に伴う放射線被ばくによって、甲状腺がんを発症した子どもの裁判「311子ども甲状腺がん裁判」を支援している「311甲状腺がん子ども支援ネットワーク」が、『原告の意見陳述』と『大法廷』での裁判を求める署名を集めています。オンラインでも署名することができます。

<https://chng.it/F2SF8rv8n8>

上記のURLもしくは、  
 右のQRコードからご署名  
 にご協力ください。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
7/17	牛田牧師	聖書を読む会?
7/24	牛田牧師	おにぎり支援
7/31	岡嶋伝道師	誕生者祝福式
8/7	牛田牧師	平和聖日・ユウカリスト・(考える会なし)

311甲状腺がん  
 子ども支援ネットワーク

311子ども甲状腺がん裁判

「原告の意見陳述」と「大法廷」での裁判を求める署名

東京地方裁判所 民事第32部 裁判長 馬渡直史 様

近代日本最大の公害事故である福島第一原発事故により、大量に放出された放射線によって被ばくし、甲状腺がんを発症した若者ら6人が、東京電力に損害賠償と救済を求める「311子ども甲状腺がん裁判」が、5月6日から始まりました。希少例であるはずの小児甲状腺がんに罹患した原告が勇気を出し、自分の思いを意見陳述したいと望んでいます。

しかしながら、馬渡直史裁判長は、第4回期日以降は、原告の意見陳述を現時点で、認めていません。また、この裁判は、社会的関心が極めて高い事件であり、第1回期日では、わずか27席の一般傍聴券を得るために226人が行列をつりました。9月7日の第2回期日以降は、小法廷とされたため、ごくわずかな人数しか傍聴できなくなりました。これは、「裁判の公開の原則(憲法82条)」の観点から大問題です。

この事件の原告は、過去に類例のない放射線内部被ばくにより、肉体的な苦痛、社会的な不利益、経済的な損害、将来に対する不安等を被っており、これらの被害の実相について裁判所に理解していただくためには、十分な時間を確保した上で、原告本人が直接、裁判所に訴えることが欠かせません。

一人一人の応援する声で、裁判所を動かす力になります! 署名にご協力ください!

< 要請事項 >

1. 原告の若者たち全員に意見陳述をさせてください。
2. 大法廷で裁判を行ってください。

お名前	ご住所
	都・道 府・県

(呼びかけ団体) 311甲状腺がん子ども支援ネットワーク (電話) 03-6384-1158  
 (事務局) 〒160-0004 東京都豊田区西台1-4-1 四軒タワー4階さくら共同法律事務所内  
 署名締約日: 第1次 2022年8月16日 / 第2次 2022年10月15日